

## 「えがく」

a2200629 渡辺 恵理

### ■製作意図■

私は幼い頃から絵を描くことが好きで、今まで小、中、高、そしてこの短大で部活、授業、趣味など様々な形で「えがく」ことを自分の身近に置いてきた。自分の中の想像、イメージ、大切な一瞬を自分なりの方法で吐露し、発散し、昇華させることが私にとっては「えがく」という行為だった。私はこれからも自分の中核にこの行為を据え、技術の上達だけでなく自分の世界や表現の幅を広げたいという願望や意思を大切にしていきたいと思っている。よって、2年間の集大成である卒業研究ではこのえがくことをテーマに蒔絵パネルを制作しようと思った。

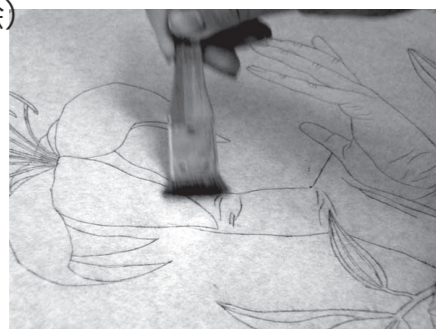
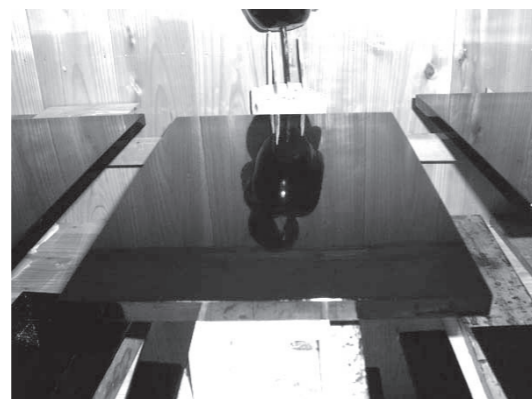
### ■デザイン■

自分自身のえがく手と、夢を表すユリが絡み、咲くことで夢の成就、描ききったというイメージにし蒔絵パネルで表現。

一枚一枚の板を指と画用紙に置き換え、五枚揃って絵となり、手になるように設定した。

### ■製作工程■

1. 木地制作
2. 木地固め
3. 下地1
4. 下地2
5. 錆付け
6. 錆固め
7. 捨塗り
8. 追い錆
9. 下塗り
10. 中塗り
11. 上塗り
12. 置き目止め
13. 加飾(研ぎ出し蒔絵)
14. 擦り漆
15. 塗り込み
16. 胴摺り
17. 加飾(平蒔絵)
18. 擦り漆
19. 磨き



### ■えがく■

(右端から)

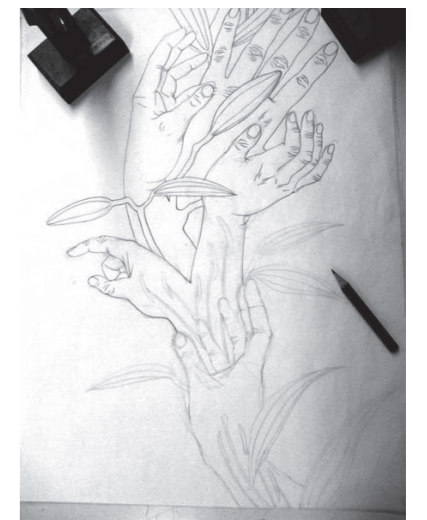
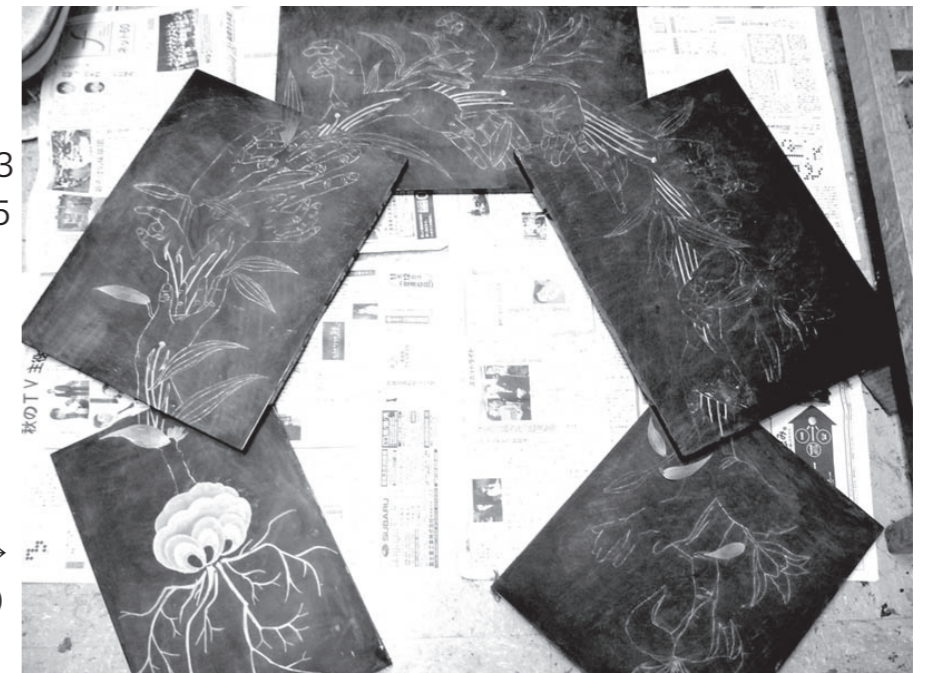
親指 36×30

人差し指 45×33

中指 50.5×30.5

薬指 43×32

小指 39×26



### ■感想と考察■

この短大に来て初めて見る漆に触れて、えがくということは紙やキャンバスの上だけのものではないのだなということを改めて認識し、また、物を造ることの楽しさ、大変さも学ぶことができた。

今回の「えがく」にあたって感じたことは、テーマについて自分の中で昇華させ、具体的に詰めていく精神的な作業の重要さと、その作業によって自分の望む表現、作品に大きく影響し変わることである。どこに何を、どのように何故、と考え、下絵を決定するまでが最も時間を費やすことになった。しかし少しずつでも出来上がる様を見られる事は嬉しくも楽しくもあり、この作品を創ることは私にとって大きな成果となったと思う。